

経営計画2019

JT Group CEO
寺畠 正道

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げるすることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等

Agenda

- 2018年度 総括
- 経営計画 2019
- JT Groupの持続的な利益成長に向けて
- 経営資源配分方針

(このスライドは空白です)

2018年度 総括

Tokyo – February 8, 2019

JT Investor Meeting

5

2018年度 総括

- RRP/RMC*双方に注力し、着実な利益成長を達成
- たばこ事業において持続的な利益成長に向けた事業基盤を強化

2018年度 全社調整後営業利益 対前年成長率（為替一定）

+8.9%

2018年度 1株当たり配当金：**150円**

*RRP : Reduced-Risk Products（喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品）
RMC : Ready Made Cigarette（紙巻たばこ）

“自ら変化を起こし、変革をリードする組織への進化”を加速

JT

- お客様中心志向の更なる徹底
- RRP/RMCトータルで勝つ組織

JTI

- より機動性の高い組織への進化に向けた検討を開始

JT-JTI間の協業を加速

- R&Dグループの事業運営体制変更

(このスライドは空白です)

経営計画 2019

経営計画 2019 – 中長期目標

全社調整後営業利益 年平均成長率（為替一定）

Mid to high single-digit

JT Groupの持続的な利益成長に向けて

Tokyo – February 8, 2019

JT Investor Meeting

11

JT Groupの持続的な利益成長に向けて - たばこ事業

“たばこ事業トータル”で中長期に亘るMid to high single-digit成長*



*調整後営業利益 成長率 (為替一定)

- “RRP/RMCトータル”で持続的な利益成長へ回帰
- 多様な選択肢の提供によるトータルシェア向上

事業成長の柱

RRP

- 第一優先に資源配分
- 製品ラインアップの拡充
- コミュニケーション施策の強化

事業成長を支える基盤

RMC

- 主要ブランドのエクイティ向上

- 適切なプライシングの追求
- コスト低減

Ploom TECH+ / Ploom S 拡販スケジュール



*宮城県、東京都、愛知県、大阪府、広島県、福岡県

全社利益成長の牽引役として、高水準の利益成長*

既存市場での持続的成長	新興市場を中心とした地理的拡大の推進	RRPにおける成長加速
<ul style="list-style-type: none"> ▶ ブランドエクイティ強化を通じたシェア向上 ▶ 適時適切なプライシング 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ M&A/オーガニック成長 ▶ M&A実施後の着実な統合施策の実行 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 製品ポートフォリオ拡充 ▶ 地理的拡大

*調整後営業利益（為替一定）

事業基盤の再構築による全社利益成長の補完

医薬事業

次世代戦略品の研究開発及び各製品の価値最大化

- ▶ 引き続き、創薬力の向上 / 個別製品の価値最大化 / 導入機会の探索に注力
- ▶ 鳥居薬品における事業構造改革

加工食品事業

持続的なトップライン成長に向けた事業運営

- ▶ ステーブル商品の販売強化
- ▶ 最適生産体制の構築を通じた事業基盤整備

経営資源配分方針

経営資源配分方針

4Sモデルに基づく経営資源配分

- 中長期に亘る持続的な利益成長に繋がる事業投資を最優先
- 事業投資による利益成長と株主還元のバランスを重視

<株主還元方針>

- 強固な財務基盤*を維持しつつ、中長期の利益成長に応じた株主還元の向上
 - 1株当たり配当金の安定的/継続的な成長
 - 自己株式取得は、事業環境や財務状況の中期的な見通し等を踏まえて実施の是非を検討
 - 引き続きグローバルFMCG**の還元動向をモニタリング

*財務方針として、経済危機等の環境変化に備えた堅牢性及び事業投資機会等に対して機動的に対応できる柔軟性を担保する強固な財務基盤を保持
**ステークホルダーモデルを掲げ、高い事業成長を実現しているグローバルFMCG (Fast Moving Consumer Goods) 企業群

Closing Remarks

Closing Remarks

- RMCというグローバルに底堅く、
プロフィット・プールの成長が見込める基盤の上に、
RRPという新しい機会での成長を実現
- 事業環境は不確実性を増している状況
- その中においても、
JT Groupがお客様を中心とした株主、従業員、そして社会から
必要とされる存在であり続けるために、
大胆かつスピーディに意識・行動を変革し、
持続的な利益成長を果たしていく

